

2025年活動スローガン「バングラデシュ支援40年 あなたも私も輝いて!!」

報 告 2025年1月～3月支援分

〈バングラデシュ〉

- ・1/27 エンゼルホームでダッカの日本人学校の先生によるリーダーのレッスンが始まりました。
- ・2/17 エンゼルホームに新しく4人のこどもが入所しました。
- ・2/20 YURIKOエンゼルスクールで運動会が行われました。
- ・2/21 YURIKOエンゼルスクールで「国際母語デー」のプログラムが行われました。
- ・3/2 YURIKOエンゼルスクールの9～10年生が社会見学でダッカの科学博物館とプラネタリウムに行きました。

〈国内活動〉

●チャリティバザーにご協力ありがとうございました

4月9日にボランティアセンターで春のチャリティバザーを開催しました。バザー開催のためにお手伝いいただいた方、バザーの品物を提供して下さった多くの方のおかげで無事バザーを開催することができました。ご協力ありがとうございました。

編集後記

4月から始まる大阪・関西万博。1970年に開催された前回の大阪万博の時、私は小学2年生でした。太陽の塔のスケールの大きさ、その内部の展示の様子を見て感動したことを今でも鮮明に覚えています。また、背の高い外国の方達を間近で見て、外国へ行ってみたいという気持ちが大きく膨らみました。55年ぶりに開催される今回の万博、訪れたこども達が世界の多様性を知り、様々な国の文化やそこに生きる人々に興味を持つきっかけになれば素晴らしいことだと思います。

イベント情報

6/8(日)

楽しいボランティアひろば

場所：本協会ボランティアセンター（伊丹市）

時間：10:00～14:00

内容：バングラデシュ活動紹介

手芸品・ノクシカタ刺しゅう製品販売

ワークショップ・模擬店等

*日時・内容等都合により変更となる場合がございますので、ホームページなどでご確認ください。

●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、シーツ、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバン、おもちゃなどいつでも受け付けています。ご近所でしたら引き取りに伺います。事務所までご連絡下さい。
☆取り扱っていないもの☆
家具、大型電化製品、自転車、使用済み食器等

2025年 行事予定

4月現在

4月	19日(土)	チャリティバザー	スーパーニシヤマ有野店	神戸市
	28日(月)	チャリティバザー	名谷駅前広場	神戸市
5月	5日(月・祝)	チャリティバザー	西宮神社	西宮市
	10日(土)	チャリティバザー	木津市場	大阪市
	20日(火)	チャリティバザー	JR六甲道南公園	神戸市
	24日(土)	チャリティバザー	スーパーニシヤマ三田店	三田市
	31日(土)	チャリティバザー	エコールいすみ	和泉市
6月	8日(日)	楽しいボランティアひろば	本協会ボランティアセンター	伊丹市
	29日(日)	チャリティバザー	育徳コミュニティーセンター	大阪市
8月	4日(月)～8月11日(月・祝)	バングラデシュツアー	バングラデシュ	

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円

特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。

郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号

01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよろしくお願いいたします。

会員数：一般会員 569名

DCEF会員 509名

(4月1日現在)

ANGEL NEWS

通巻211号
2025.04

ルティの作り方を教えている様子

今年も2月にエンゼルホームに新しいこどもが入所しました。今回入所した子達もそれぞれ家庭に様々な事情を抱えた子達です。私はバングラデシュに行った時に、新しく入所する子との面談に同席することがあります。どの子もおとなしく、不安げで、保護者の方も言葉少なく、なんとも静かな面談です。面談が終わると年上の子達がやってきて、入所する子達の荷物を持ってそれぞれの部屋に連れて行ってくれます。この時にお兄さん、お姉さんの関係ができて、こども達は安心していくのでしょう。始めは落ち着きなくおどおどしていた子も、6ヵ月後に行くと見違えるように明るく元気になっています。そして自ら私達の手を引いてホーム内を案内してくれます。この変化にスタッフや年上の子達があたたかく接してくれていることを実感するのです。

“It's not important where you from. It's important where you go.” (重要なのはどこから来たのかではなく、これからどこに行くのか) エンゼルホームの食堂にはこの標語が掲げられています。新しくやって来た子達もこの言葉を胸に未来に希望をもって歩んで行って欲しいと思います。そして、現地のスタッフ達だけでなく日本の皆さんからもたくさんの愛が、支援という形でこども達に届けられています。多くの方からたくさんの愛を受けたこども達がこれから明るい未来を作っていくことを願っています。

代表理事 東村 真理子



🕊️ バングラデシュ支援プロジェクト紹介

国際エンゼル協会がバングラデシュ支援を始めて今年で40年を迎えます。この間、その時代にあった様々な支援プロジェクトを行ってまいりました。日々目まぐるしく変化しているバングラデシュの中で、今私達が行っている支援プロジェクトを紹介いたします。

児童養護施設「エンゼルホーム」

1985年、初代代表の故川村百合子が初めてバングラデシュに訪れた時に「この国に教育を届けばきっと素晴らしい国になる」と感じ、こども達への教育支援活動が始まりました。児童養護施設エンゼルホームは1986年に首都ダッカのマンションの一室から始まり、1990年にはガジプール県コナバリ村に約8,000坪の広大な敷地を購入し移転しました。当時は何もない閑静な農村だったコナバリ村も今は縫製工場が立ち並び、ローカルマーケットも次々と増え、車の騒音と人々の活気に溢れる街になりました。しかしエンゼルホームの敷地は今も変わらず、緑に囲まれた静かで美しい環境を保っています。ホームに来たこども達は、この素晴らしい環境の中で日々充実した生活を送っています。



朝は日が昇ると皆でホーム内の清掃をしています。集団生活の中で勉強だけでなく、社会生活に必要な知識やルールを身に付けていけるよう支援しています。



朝食前や学校から帰宅後、夕食後など、自分達でしっかりと勉強のスケジュールを立てて計画的に自習しています。



勉強だけでなく、踊りや音楽などの文化的な習い事にも積極的に取り組んでいます。



課外学習としていろいろな所にみんなで遠足に行ったりしています。



ホームに来た子が不安なく生活できるよう家庭の様子など入所前に面談しています。



大きな子が小さな子の面倒を見て、日々の生活の手助けをしています。

「ある日突然父親が出稼ぎから帰ってこなくなり音信不通になってしまった」「事故や病気で親が働けなくなり収入が途絶えてしまった」「土地を持っておらず、安い賃金で雇われ農家として働きなんとか家庭を支えている」その他、様々な理由で経済的に困窮している家庭がたくさんあります。しかし日本と違い、貧困家庭への公的支援は全然足りておらず、そうした家庭の子は学校に通わずに働いて家計を助けています。

エンゼルホームに来る子もそれぞれ複雑な家庭環境の中で育ってきています。小学校に入る前から親と離れて暮らすことを余儀なくされた子も「自分はここで頑張って勉強して、将来立派な仕事をして親を助けてあげるんだ」と日々勉強に励んでいます。私達はこどもがこどもらしく生活できるよう、そして彼ら彼女らが夢への道をまっすぐに進み、いつかその夢を叶えられることを願って、日々支援活動を続けています。

YURIKOエンゼルスクール

バングラデシュの教育制度は小中一貫の10年制になります※1。5年生終了時に初等教育終了試験があり、合格すると中等教育に進めます。その後8年生終了時にも終了試験があり、合格すると文系・理系・商業系といった専門コースに分かれます。最後に2年後の10年生終了後に全国統一卒業試験があり、その試験の結果は将来就職する際にも関係してくる重要な試験になります。そのため、教育現場ではとにかく試験で良い点数を取るための詰め込み教育が盛んに行われているのが現状です。

※1 バングラデシュ政府は現在、中等教育を前期3年、中期2年、後期2年の計7年制にし、中等教育卒業後に大学に進学できる制度を公表しています。しかし現実には制度に追いついておらず、多くの学生が後期中等教育にあたる2年は従来通り高等学校や専門学校に通っています。



低学年の授業では学ぶ楽しさを知ってもらうため発表の機会を増やすなどし、ほめて伸ばす教育に力を入れています。高学年になると試験直前にはしっかりと試験対策も行っています。

YURIKOエンゼルスクールでは心豊かで優れた大人に育ってほしいとの願いから、勉強だけでなく体育や音楽といった副教科にも力を入れています。また、バングラデシュの歴史にまつわる記念日には文化祭を開催し、歌やダンスの発表会や、スピーチコンテスト、絵画コンテストなどを行うなど、文化的なイベントにも力を入れています。

「YURIKOエンゼルスクールでは教えられたことを覚える力だけでなく、自分達で考えて学ぶ力を身に付けることができた。そのおかげで卒業後も躓くことなく頑張ることができた」卒業生達は皆ここで学んだ力を社会に出てから存分に発揮してくれています。

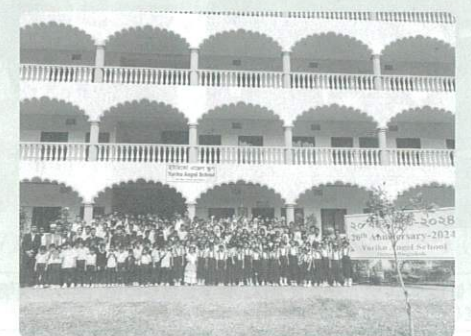


文化祭では日頃練習していたダンスや歌、劇の発表をしています。また食べ物やスーパーボールすくいなどの模擬店も楽しんでいます。

YURIKOエンゼルスクールは2005年の開校から今年で20年です。周辺的环境も大きく変わり、それに伴い学校に通う生徒達も変化してきました。以前は「とにかく詰め込み教育をして欲しい」といった保護者からの要望が多かったのですが、最近は「副教科やその他の活動が充実していて、心身ともに成長させてくれるから」といった理由でYURIKOエンゼルスクールを選んでくれる家庭が増えています。これからも、社会や人のために働ける心豊かな人材を育てていけるよう、学校運営を続けていきたいと思っています。



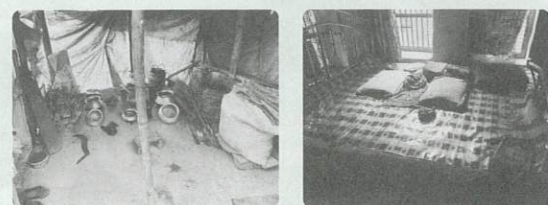
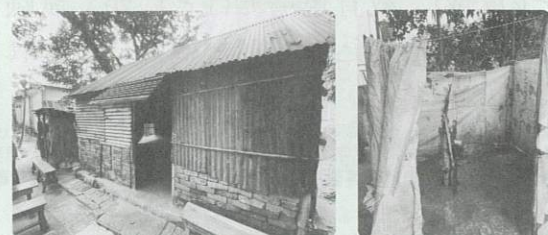
スピーチコンテストや歴史にちなんだ壁新聞の作成など、文化活動にも力を入れています。



DCEF 発展途上国教育基金(教育里親制度)

バングラデシュでは、都市部と農村部の生活は大きく異なっています。特に首都ダッカには全土から人や物が集まっており、それに伴い大きな建物が増え交通インフラはどんどん発展してきています。一方で農村部は薪を用いて炊事をしたり、牛を使った農業が行われていたり、昔と変わらない生活が営まれています。これらの発展の差は収入面にも現れており、平均月収は都市部の45,000タカに対して農村部では26,000タカと大きく開いています。収入が少ないと子ども達にかかる教育費も捻出できません。農村部の子どもの中には、学用品を買うことができずに退学せざるを得なくなった子がたくさんいます。

こうして若くして進学をあきらめることとなった子は、家計を助けるために働きに出ます。しかし農業を行うにしても生産性や効率性の向上のための学問を学ぶことができていないため、所得を上げることができません。また仕事を求めて都市部に出たとしても仕事は少なく、就ける仕事は低賃金で厳しい条件となってしまいます。そのため都市部に集まった多くの若者が困窮した生活を送ることとなります。こうした貧困の連鎖を断ち切るため、国際エンゼル協会では農村部の学生を中心に学用品などを購入するための奨学金を供与しています。



農村の暮らし(奨学生の自宅)
トタンで囲った家に一つのベッドで家族4人が生活しています。ガスや水道はなく井戸水と薪を使った生活です。

皆様からいただいた奨学金資金は、本年度は1,200名の学生に届ける予定となっています。その際にただお金を渡すだけでなく、社会のルールや規律を守る重要性などを伝えるためのプログラムを行っています。こうした機会に広く社会生活に必要なことを伝え、それが彼らの将来の生活に役立ってくれることを願っています。

DCEFが始まり36年が経過しました。今も多くの学生達が奨学金のおかげで進学し続けることができ、安定した収入を得ることができる職に就いています。そして次は自分達も地元の農村の学生達を支援していくようになっています。学生達はただお金を受け取るだけではなく、社会に役立つ人間に育って欲しいという想いもしっかりと受け取り、次に繋いでいってくれています。



DCEFで皆様からいただいた資金は、奨学金供与の他、学校の環境整備やエンゼルホームの子ども達の学習費、子どもの頃に学ぶことができなかった農村女性のための識字教室などにも活用されています。

ヘルスケアセンター(クリニック)



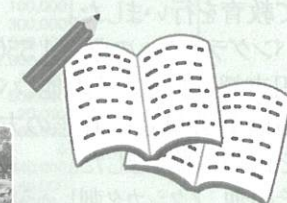
地域医療を支えるため、クリニックを運営しています。当クリニックには男性医師だけでなく女性医師も常勤しています。現地では小さなクリニックには女性の医師が常勤しているところが少ないため、女性や子どもが安心して受診できると地域に方に喜ばれています。

開発協力(その他の寄付)



地方の学校ではトイレ設備が十分整っていないところが多くあります。そうした学校へトイレ設備の寄付を募っています。また子ども達が昨今のIT化に取り残されないためにICT環境整備のためのパソコン等の寄付、想像力や創造力を豊かにしてくれる図書の寄附、その他にも学習環境や設備、備品など様々なご寄付を募り、現地へ届けています。

識字教室



バングラデシュでは、女性は学問をせず農業や家事を学び、早くから結婚をしたほうが良いというジェンダー差別がありました。そのため学校に通うことができず、文字の読み書きができなかったり、基本的な衛生知識を学ぶことができなかった女性がたくさんいます。

最近では教育の重要性が広く周知されてきましたが、それでも経済的な理由で学校に通えなくなる女の子が後を絶ちません。そうした女の子の多くが、18歳になる前に両親が決めた相手と結婚させられてしまいます。



当協会の識字教室は6ヵ月で卒業となります。短い期間ですが、それでも参加した女性達は「子どもの頃に学校に通えなかったのが、こうして皆とワイワイ楽しく学ぶことができている、青春を取り戻せたようです」「日々の暮らしの中でバスの行き先や薬の注意事項などが読めるようになり、銀行での手続きや家族との手紙のやり取りもできるようになるなど、生活の質が向上した」と喜ばれています。

令和6年度活動報告

①社会教育活動

●春、秋の本協会チャリティバザーの他、各地でチャリティバザーを行いました。その他、国際交流活動としてバングラデシュツアーや楽しいボランティアひろばを開催しました。教育啓発活動では障がい者支援施設への手芸サークルボランティアや地域清掃活動など行いました。



バザーの様子



ノクシカタ刺しゅう製品販売



ボランティアひろばワークショップ



バングラデシュスタディツアー

②災害救援活動

●2024年1月1日に起こった能登半島地震の被害者支援のための募金活動を行いました。集まった募金2,901,200円は石川県へ2,115,000円、被害の大きかった珠州市へ260,000円、輪島市へ260,000円、七尾市へ266,200円寄付しました。

③国際協力活動

- バングラデシュプロジェクトにおける児童養護施設では37名のこども達を預かり、共に生活をしながら学校に通えるよう支援しました。また中学卒業後に施設外で生活する高校生以上のこども達25名に生活支援を行いました。その他、卒業生が日本の企業で就職をすることになり、日本での生活が順調に始められるよう支援を行いました。
- バングラデシュにて学校を運営、268名の学生にグローバルな視野で物事を考えられるよう様々な文化、運動プログラムを交えて教育を行いました。
- バングラデシュの学生1,550名へ奨学金を支給しました。また(財)北ルソン比日基金を通じて、フィリピンの子供達へ奨学金50万円支援しました。その他、バングラデシュの農村女性360名に識字教室を行いました。
- 当協会会員及び有志の方より計10基分のトイレ建設資金を寄付頂き、バングラデシュの農村部の学校及び教育機関へトイレを10基寄贈しました。
- その他、ノクシカタ刺しゅう製品の販売やクリニック運営等、バングラデシュの経済的に貧しい方への支援活動を行いました。

バングラデシュプロジェクトの様子



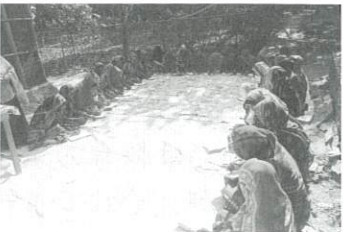
エンゼルホーム



YURIKOエンゼルスクール



DCEFの奨学生



識字教室

④子どもの健全育成を図る活動

●高校での課外授業の講師として招かれ、異文化交流や社会情勢など伝えました。その他、月1回こども食堂を開催し、地域のこども達の居場所作りや貧困対策、また母親達が繋がる場所作りに貢献しました。近隣の高校生ボランティアも継続してこども食堂にお手伝いに来てくれるようになり、地域における奉仕活動の場所作りとしての役割も果たすことができました。



高校出張講座



こども食堂



尼崎クルージング



お琴演奏体験



お菓子釣り

令和7年度 国際エンゼル協会 会員総会を開催

令和7年度定時会員総会が3月11日(火)に開催されました。令和6年度事業報告及び決算報告、令和7年度事業計画及び予算(案)、その他の議案が審議の結果、全会一致で承認されました。これからも皆様のご支援ご協力をよろしくお願い致します。

令和6年度活動計算書

令和6年1月1日から令和6年12月31日まで

(単位: 円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員会費	3,293,000		
特別会員会費	8,775,000	12,068,000	
2 国内活動寄付金			
一般寄付金	0		
指定寄付金	0	0	
3 国際活動寄付金			
一般寄付金収入	6,736,976		
教育援助寄付金収入	20,789,427		
募金収入	4,605,291	32,131,694	
4 受取助成金			
一般助成金	1,200,000	1,200,000	
5 事業収入			
5-1 社会教育活動事業収入	8,334,028		
5-2 青少年育成事業収入	454,300		
5-3 災害救援活動収入	2,901,466		
5-4 国際協力活動事業収入	1,590,890	13,280,684	
6 その他収入			
受取利息	1,963		
雑収入	100,814		
書籍販売収入	0	102,777	
経常収益計			58,783,155
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給与手当	9,198,956		
福利厚生費	1,552,105		
人件費計	10,751,061		
(2) その他経費			
研修費	0		
支援金	2,901,200		
製作費	184,800		
旅費交通費	1,201,966		
消耗品費	871,279		
印刷費	0		
賃借料	709,167		
諸謝金	0		
通信送達費	20,149		
租税公課	0		
諸雑費	790,389		
広告宣伝費	39,204		
女性自立支援事業費	0		
教育援助事業費	13,002,207		
保健医療事業費	885,745		
孤児救済事業費	13,310,721		
現地管理費	6,671,371		
開発協力費	2,919,257		
エンゼルスクール事業費	4,036,522		
棚卸減少額	949,974		
その他経費計	48,493,951		
事業費計		59,245,012	
2 管理費			
(1) 人件費			
給与手当	1,636,532		
福利厚生費	221,553		
人件費計	1,858,085		
(2) その他経費			
旅費交通費	396,297		
消耗品費	133,550		
印刷費	650,956		
賃借料	91,080		
諸謝金	165,000		
通信送達費	475,180		
会議費	26,278		
水道光熱費	696,361		
修繕費	212,710		
燃料費	98,956		
保険料	141,392		
租税公課	89,400		
渉外費	80,761		
保守管理費	0		
諸手当	30,688		
諸雑費	928,508		
減価償却費	2,570,438		
その他経費計	6,787,555		
管理費計		8,645,640	
経常費用計			67,890,652
当期経常増減額			△ 9,107,497
III 経常外収益			
1 財産運用益収入			
発展途上国教育基金積立金利息収入	3,057		
国際協力活動事業積立金利息収入	43		
災害救援活動事業積立金利息収入	77		
事業運営基金積立金利息収入	17	3,194	
2 固定資産売却益	0	0	
3 過年度損益修正益	0	0	
経常外収益合計			3,194
IV 経常外費用			
1 固定資産除却損	0	0	
2 過年度損益修正損	0	0	
経常外費用合計			0
当期正味財産増減額			△ 9,104,303
前期繰越正味財産額			84,238,976
次期繰越正味財産額			75,134,673

令和7年度活動予算書

令和7年1月1日から令和6年12月31日まで

(単位: 円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員会費	3,300,000		
特別会員会費	7,500,000	10,800,000	
2 国内活動寄付金			
一般寄付金	100,000		
指定寄付金	100,000	200,000	
3 国際活動寄付金			
一般寄付金収入	6,700,000		
教育援助寄付金収入	18,150,000		
募金収入	19,270,000	44,120,000	
4 受取助成金			
一般助成金	100,000	100,000	
5 事業収入			
5-1 社会教育活動事業収入	9,310,000		
5-2 青少年育成事業収入	240,000		
5-3 災害救援活動収入	100,000		
5-4 国際協力活動事業収入	1,500,000	11,150,000	
6 その他収入			
6-1 受取利息	10,000		
雑収入	90,000		
書籍販売収入	0	100,000	
6-2 財産運用益収入			
発展途上国教育基金積立金利息収入	10,000		
国際協力活動事業積立金利息収入	10,000		
災害救援活動事業積立金利息収入	10,000		
事業運営基金積立金利息収入	10,000	40,000	
経常収益計			66,510,000
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給与手当	9,350,000		
福利厚生費	1,550,000		
人件費計	10,900,000		
(2) その他経費			
研修費	20,000		
支援金	100,000		
製作費	300,000		
旅費交通費	3,340,000		
消耗品費	1,380,000		
印刷費	20,000		
賃借料	500,000		
諸謝金	20,000		
通信送達費	80,000		
租税公課	0		
諸雑費	440,000		
広告宣伝費	40,000		
女性自立支援事業費	100,000		
教育援助事業費	13,100,000		
保健医療事業費	100,000		
孤児救済事業費	13,500,000		
現地管理費	7,500,000		
開発協力費	2,100,000		
エンゼルスクール事業費	3,200,000		
棚卸減少額	800,000		
その他経費計	46,640,000		
事業費計		57,540,000	
2 管理費			
(1) 人件費			
給与手当	1,900,000		
福利厚生費	250,000		
人件費計	2,150,000		
(2) その他経費			
旅費交通費	630,000		
消耗品費	170,000		
印刷費	670,000		
賃借料	100,000		
諸謝金	180,000		
通信送達費	500,000		
会議費	40,000		
水道光熱費	750,000		
修繕費	250,000		
燃料費	100,000		
保険料	150,000		
租税公課	100,000		
渉外費	100,000		
保守管理費	10,000		
諸手当	120,000		
諸雑費	450,000		
減価償却費	2,500,000		
その他経費計	6,820,000		
管理費計		8,970,000	
経常費用計			66,510,000
当期経常増減額			0
III 経常外収益			
1 固定資産売却益	0	0	
2 過年度損益修正益	0	0	
経常外収益合計			0
IV 経常外費用			
1 固定資産除却損	0	0	
2 過年度損益修正損	0	0	
経常外費用合計			0
当期正味財産増減額			0
前期繰越正味財産額			75,134,673
次期繰越正味財産額			75,134,673